

送付先：ICT夢コンテスト2020 事務局 宛 (E-mail: yume-oubo@japet.or.jp)

ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

| | |
|--------------------------------------|----|
| 類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。 | 無し |
|--------------------------------------|----|

この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。

| | | | |
|---|--|--|---------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 効果的な授業 | <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒の資質・能力向上 | <input type="checkbox"/> 教員研修 | <input type="checkbox"/> ICT活用指導力向上 |
| <input type="checkbox"/> 校務の情報化 | <input checked="" type="checkbox"/> 保護者や地域への情報発信 | <input type="checkbox"/> ICT環境整備 | <input type="checkbox"/> ICT活用サポート |
| <input checked="" type="checkbox"/> ICT活用推進 | <input type="checkbox"/> 学校運営・管理 | <input type="checkbox"/> 保護者や地域による学校支援 | <input type="checkbox"/> 地域での児童生徒学習支援 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事 | <input type="checkbox"/> 通級指導教室・特別支援学級 | <input type="checkbox"/> その他 () | |

| | | | | | |
|---|---------------------------------|-------|---------------------------|-----------|----------|
| 学校又は団体名 (実践時) | 私立小「未来の学び」Platform 192Cafe | | | | |
| 団体種 (校種、NPO 等) | 私立小の先生のコミュニティ(代表も会員もないプラットフォーム) | | | | |
| 応募者 <small>氏名漢字、職名、氏名カナ、 学校又は団体名(実践時) 上記と異なる場合のみ記入 ※連名での応募も可</small> | 応募者※1 | 吉金 佳能 | 教諭 | ヨシカネ カノウ | 宝仙学園小学校 |
| | 連名者 (3名まで) | 龍 達也 | 副校長 | リュウ タツヤ | 敬愛小学校 |
| | | 山中 昭岳 | 教諭 | ヤマナカ アキタカ | さとえ学園小学校 |
| | | 山田 耕介 | 教諭 | ヤマダ コウスケ | 福岡雙葉小学校 |
| 学校や団体への所属年数(応募者) | 14 | 年 | ICT夢コンテストの今回を含む応募回数 (応募者) | 5 | 回目 |

| | | | | |
|----------------------------|--------------------------------|---|---|--|
| 実践事例タイトル (30文字以内・サブタイトル無し) | 私立小の垣根を越えた学校「192Future School」 | | | |
| 教科もしくは分野 | 小学校全科・総合 | 教科の単元がわかる場合 (複数可) | | |
| 対象者 (学年・他) | 小学5・6年 | | | |
| 実践場所 (PC教室、体育館等) | オンライン | 実践時期 | 2020年5月～現在 | |
| 活用したICT機器、教材、環境等 | デジタルデバイス、ネット環境 | 実践の特長 (先進性、普及性) をどちらか一つ選択 ※該当する項目の左に●を記入 | <input checked="" type="checkbox"/> 先進性 | |
| | | | <input type="checkbox"/> 普及性 | |

アンケートをお願いします。

コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。番号を「番号記入欄」に記入してください。複数記入可です。

(問) 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。

(回答群) ①案内ポスター ②案内チラシ ③事務局メール ④新聞等のニュース媒体から ⑤前から知っている
⑥教育委員会からの紹介 ⑦上司や友人・所属団体からの紹介 ⑧JAPET&CEC ホームページより

| | | | | | | | | | |
|-------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 番号記入欄 | ⑤ | | | | | | | | |
|-------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|

- ※1：連名の場合、「応募者」は自ら実践し自ら事例を執筆したご本人とし、かつ事務局からの直接の連絡先としてください (実践の際の監修者や上司、自治体・学校等の協力者などを「応募者」とはしないでください)。
- ※2：連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述ください。また、E-mail 及び電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述ください。
- ・1 頁目表紙 (応募者情報) のフォーマットの変更は、ご遠慮ください。
- ・応募事例の図や写真データの組み込みは自由です。参照URLは不可です。
- ・表紙記述1 頁と実践事例内容記述2 頁以内、計3 頁以内で纏めてください。それ以上は受理できません。

実践の概要（実践内容を5行以内で簡潔にまとめる）

休校中の子どもたちに、多様で刺激的な学びを届けたい。192FutureSchoolはそんな想いで開校した、オンラインスクールである。週に1度、休校中の子どもたちをオンラインでつなげ、様々な学校の先生の授業やイベントを届けた。これまでに6回実施し、全国12校延べ約400人が参加した。他の学校の子とチームを組んで課題解決をするなど、日常では体験できない学びを届けることができた。

*192という数字は、日本私立小学校連合会に所属する学校数を表している(2018年10月時点)。

(1) ICT活用の目的とねらい

新型コロナウイルスによる休校中に、多くの団体がオンラインスクールを立ち上げたが、学校の先生が、学校を越えて学校の児童のために立ち上げた例は珍しいのではないかと感じる。我々の実践はそこに価値がある。我々私立小のメンバーは、日本の教育モデルになるべく、新たなICT活用例を提案する。

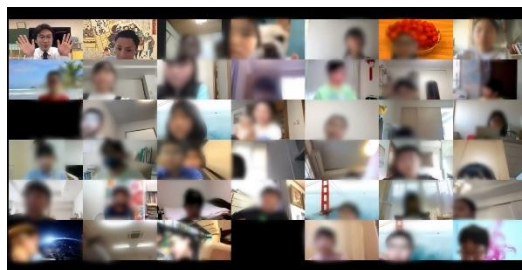
さて、本実践のICT活用の目的は、いつでもどこでもつながり、誰とでも学び合える環境をつくることである。ねらいは、子どもたちが、自身が所有する一人1台端末の持つ大きな可能性を感じ、さらなる活用につなげることであり、子どもが、ICTの持つ可能性を感じることで、GIGAスクール構想の先が開けると考えている。それは、子どもたちがICTを当たり前道具として使いこなし、新たな学びを創造する姿である。

*今回使用したICT機器は、WEB会議システム(Zoom)である。また、必要に応じてKahoot!やQuizlet、ロイノート・スクールなどのアプリも使いながら楽しく進めていった。

(2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）

192FutureSchool(以下192FS)は、5月1日の開校以来、これまで6回のイベントを行い、全国12校延べ約400人が参加した。15時スタートで、毎回40分程度で実施した。

- 5月1日 FS#1 「社会科王決定戦！」
- 5月8日 FS#2 「理科王決定戦！」
- 5月15日 FS#3 「全国ハッピープロジェクト！」
- 5月21日 FS#4 「超難問クイズ！チームバトル」
- 5月27日 FS#5 「なぞなぞ王は君だ！日本一決定戦」
- 8月17日 FS#6 「社会科クイズ王選手権」



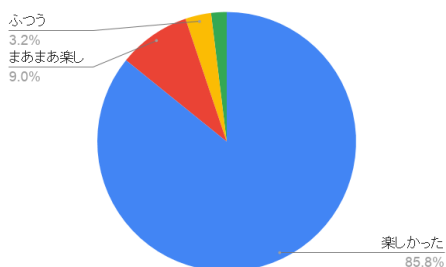
内容は、教科的なクイズや思考を楽しむものが多いが、なるべく自己紹介や学校紹介の時間をとり、交流の時間を大切に運営してきた。第3回の全国ハッピープロジェクトでは、お家時間の過ごし方を、全国のみんと紹介し合った。自分なりの楽しい過ごし方や、こんなことするとお家の人が喜んだよという情報など、さまざまに交流をすることができた。

さて、先進性・普及性は、ともに高いと考える。これからの教育は、実社会とのつながりの中で学ぶことを求めている。そのつながりを、大きく広げるのがICTである。今回の事例も、他校の子たちとのつながりの中で学び、学ぶ意味や楽しさを共有しながら進めていった。何より、多様な価値観に触れたことで、ものの見方や考え方が広がったのではないかと感じる。

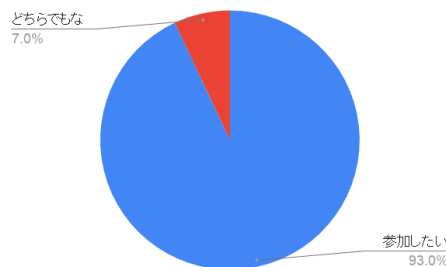
新型コロナウイルスの影響もあり、日本のICT教育は大きく進んだ。このような学校を越えた取り組みも、難しくなくなった。その一つの事例として、先駆的にICT教育に力を入れていた私立小の取り組みを発信することで、日本のICT教育のさらなる推進に役立つことができると考えている。ICT夢コンテストに応募し、取り上げていただけたことが、まさに普及につながる工夫のひとつである。

(3) 実践の成果 (子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等)

実践の成果に関しては、参加した子どもたちの声(アンケート結果)で語らせて欲しい。全6回で計160件のアンケート回答があった。項目は4つ、その結果を以下に記す。記述については一部抜粋である。



①今回の192FSはどうでしたか。



②次のイベントがあれば、参加したいですか。

*楽しくなかったと回答した児童の多くは、ネットワークトラブルがあった児童であった。

③今回の感想・コメントがあればお書きください。

【子ども】

- ・みんなの理科のレベルの高さにビックリしたし、自分も頑張ろうと思いました。休校でなかったら他校とこんなふう交流する機会がないので良い経験ができたし、いろいろチャレンジしたいなと思いました。
- ・他校の人は自己紹介がてきぱきとしていて、リーダーシップがあり、憧れました。
- ・東京にいるのに、組んだチームの子が関西(近畿大学小学校)の子だった事に驚いた。オンラインならではの良い点だなと思いました。
- ・zoomを使ったのが初めてだったので、慣れている他の小学生達の話し合いの進め方の提案についていくのが大変でした。発言のタイミングも難しかったです。もっともっと発言したかった思いが残りましたが、それも良い経験になったと感じています。とても楽しかったので、また参加したいです!
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のために学校に行けていないですが、そんな時にもこうやって楽しめるので、すごく良かったです。また次回の192フューチャースクールに参加したいと思います!!

【保護者】

- ・子供は想像以上のクオリティに喜び、ライブ感に興奮し、普段の勉強では見せない集中力で臨んでいました。終了後は自ら調べ、復習するなど、その影響は大きかったと思います。
- ・子どもがすごく楽しそうにできて、クイズ番組に参加したような高揚感というのでしょうか、久しぶりにこんなにイキイキとしている姿を見て嬉しくなりました。

④どんな内容の授業を受けたいですか。

- ・プログラミングをした事がないので、是非その授業を受けてみたいです。
- ・コロナウイルスなどのテーマを決めて、みんながどういう風に考えているかについて、意見交換ができたらいいなあ。
- ・自分の好きな本やハマっているものを紹介しあいたい。

192FSは、これからも継続して実施していく。今後は、課外活動にとどまらず、授業に応用することも計画している。例えばいま構想しているのは、「192TED」というイベントである。これは、テーマを決めたプレゼン大会である。それを校内だけではなく、他校にまで広げて実施することで、より多様な価値観に触れ、大きく成長できる機会にしたいと思い描いている。これを企画している我々がそうしているように、学校を越えた学びの場を創っていくことが、子どもたちの可能性、そして学校の可能性をさらに引き出すことにつながると思う。